

西脇市消費生活センター

☎22-3111 (防災安全課内)

No.196

フリマサイトを装った詐欺に注意

近年、フリマサイトやキャッシュレス決済代行会社を装った悪徳業者によるクレジットカードの不正利用が増加しています。困ったときは、消費生活センターへご相談ください。

◆事例

フリマサイトからスマートフォンのSMS (ショートメッセージサービス) にメッセージが届いた。記載されたURLにアクセスし、IDやパスワードを入力すると、「アカウント情報変更」と表示され、ログインできなくなった。そのメッセージは公式ではなく、フリマサイトのアカウントが乗っ取られたと判明。フリマサイトにクレジットカード等の情報を登録しているため、不正利用されないか心配。

◆アドバイス

- 届いたメッセージ等に記載されたURLにはアクセスせず、公式サイトで情報を確認しましょう。また、非公式のサイトにはIDやパスワード、クレジットカード番号等の個人情報は入力しないようにしましょう。
- 毎月、利用明細を必ず確認しましょう。
- 不正利用が疑われる場合は、早急にカード会社に連絡しましょう。

めぐりコラム 34

西脇市では黒田庄和牛や山田錦、イチゴなど全国に誇れる地域食材が生産されており、さまざまな農業振興施策を推進しています。このコラムでは、本市の農業に関する旬な情報をお伝えします。

■問合せ 農林振興課 (市役所内線 2031)



旬野菜は収穫量が増加。旬菜館では多く店頭に並び

冬野菜を食べよう

冬野菜とは、冬に旬を迎え、冬が主な収穫時期となる野菜のことです。旬の野菜はその時季が一番おいしいとされ、含まれる栄養素の量もぐっと増えます。特に冬野菜には、下記のような特長があります。

冬野菜の特長① 甘さ

冬野菜の甘さは、寒い時期に育つことが関係しています。野菜には水分が多く含まれていますが、その水分はただの水ではなく糖分を含みます。糖分を含んだ水は凍りにくく、冬の旬野菜は自ら糖度を高くし、凍ってしまうのを避けているのです。

冬野菜の特長② 加熱調理向き

冬野菜には大根や白菜、ホウレンソウなどがあり、加熱調理して食べるものが多いのが特徴です。みそ汁や鍋料理など、煮汁まで食べる料理がお勧め。体が温まることに加え、野菜に含まれる水溶性の栄養素も取ることができます。

* * * * *
北はりま旬菜館では、旬野菜を豊富に取りそろえています。旬を知り、野菜をおいしく食べましょう。



▲70種類以上あるブックレシピは年齢を問わず楽しめる内容

好きです!! にしわきわたしのふるさと

心紡いで 彩り豊かな人財の育成

～誰もがふるさとに誇りと愛着を持ち、輝いて生きる 共生社会の実現に向けて～

教育委員会や学校園の情報をお知らせします。

図書館での新たな発見と出会いをサポート 「ブックレシピ」はいかがですか

西脇市図書館には、約22万冊の図書があります。この中から好みの図書を探し出すのは楽しい反面、なかなか手回しにくい。そこで、利用者の皆さんの本探しに少しでも役立つよう、図書館員がほんの案内をまとめた「ブックレシピ」を制作しました。平成30年に開始し、今では約70種類のさまざまなテーマのレシピを用意しています。

西脇市図書館の司書が制作

ブックレシピは、各分野の担当司書が利用者の皆さんに興味を持ってもらえそうなテーマと、テーマに沿ったお薦めした本を選んで制作。料理のレシピ本のように、図書館で本を選ぶときのガイドとして使ってもらいたい——との思いを込めています。レシピは文庫サイズのおおむね一枚もので、本の表紙や請求番号も掲載し、手軽に見ることができま

す。例えば、食べ物のテーマでは「辛い」や「パン」、「鍋料理」などが、読み物では「おいしい小説」や「時代小説や時代劇のおともに」などがあります。また、「100歳の人が考えていること」等の変わり種もあります。「辛い」がテーマのレシピは、辛くてス

レシピは持ち帰り自由

ブックレシピは、図書の分野ごとに、書架の側面に設置しています。また2月末までみらいえビュールームでも展示します。

◆問合せ 図書館 (☎2315991)

心のスケッチ

154

人権教育課「コラム」

「おせっかい」が人を救う

昨年12月、人権文化をすすめる市民運動の講演会を開き、タレントや女優として活躍するサヘル・ローズさんを講師にお招きしました。イランで生まれたサヘルさんは戦争孤児として幼少期を施設で過ごし、8歳のときに今の母親に養子として迎えられるようになりました。その後、養父のいる日本へ養母とともにやってきました。しかし、養父の虐待に耐え兼ねて養母とともに家を飛び出し、一時は公園での生活も経験したと。中学校に入ると、外国人であること理由にいじめに遭うなど、さまざまな苦難を乗り越えながら生きてきました。そんなサヘルさんたちを救ったのは、周りにいる人たちの「おせっかい」でした。自分の家に住まわせ、食べる物や着る物を与えてくれた給食のおばちゃん、付きっきりで日本語を教えてくれた小学校の校長先生、サヘルさんが発する「SOS」のサインに気づいた大人たちが声を掛け、支えたのでした。

「なぜ、そこまでしてくれるのか」というサヘルさんの問いに、給食のおばちゃんは「お互いさまでしょ。お互いに寄りかかって生きてるんだよ」と答えたそうです。講演会の中でサヘルさんは「私たちは誰かの発する変化に気付くはず。気付いたときに、自分から声を掛けられる社会でありたい」と話されました。新型コロナウイルスの感染拡大によって、人と人とのつながりが制限される現代社会において、この言葉の重みをより強く感じます。

「おせっかい」は、必要のないことに口を出したり、世話を焼いたりする意味で用いられ、一般的にネガティブなイメージで使われることが多い言葉です。しかし、サヘルさんの体験から、その行為が周囲に関心を持って働き掛ける、大切な営みであることを学びました。

私たちの身近なところでも「SOS」のサインを出している人がいるかもしれません。そんな人に出会ったとき、私は勇気を持って「おせっかい」をしてみようと思います。

市長からの手紙

西脇を元気に!!

97

西脇市長 片山象三

「西脇市産イチゴ」の魅力

西脇市は平成26年度からイチゴ農家を育成する「スイーツファクトリー支援事業」を実施。西脇市産イチゴの特産化と、西脇へのUターンや移住促進を目的としています。現在、イチゴ農家は市内に7カ所ありますが、とても人気があり、直売所などでは早い時間に完売になっているのをよく目にします。

イチゴ農家さんが増えるにつれて、西脇市産イチゴの魅力を発信しようという取り組みが徐々に広がり、シヨート



西脇市産イチゴを使ったスイーツをPR

新型コロナが収束する頃には、両協議会のイチゴスイーツが西脇市の観光名物となるよう応援しています。「元気なまち西脇市」をともに創ってまいります。

ケーキやいちごプリンなど、たくさんのお菓子が市内のお店で販売されています。そして、2パック分のイチゴを使った巨大パフェは、西脇の名物となっています。そのような中、イチゴ農家がある津万・芳田地区では、昨年度からイチゴの需要拡大や知名度向上のために6次産業化を推進。このほど、北はりま旬菜館でお披露目を兼ねた販売会「いちごスイーツマルシェ」が開催されました。津万地区自治協議会「T.U.M.A.こいカフェ」のいちごサンドと、水尾町まちづくり協議会「なでしこママ」のいちごブッセとジュレは約30分で完売。プロ並みのおいしさに購入者が殺到しました。